

口永良部島の火山活動解説資料（平成 24 年 9 月）

福岡管区気象台
火山監視・情報センター
鹿児島地方気象台

火山活動は静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。ただし、新岳火口内では噴気活動が続いており、火山灰等の噴出する可能性があります。また、火口付近では火山ガスに注意してください。

平成 24 年 1 月 20 日に噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 9 月の活動概況

・噴煙など表面現象の状況（図 1、図 2、図 4）

新岳火口の噴煙活動に特段の変化はなく、白色の噴煙が最高で火口縁上 300m まで上がりました。

11 日に第十管区海上保安本部が実施した上空からの観測では、新岳火口から白色の噴煙が上がっているのが確認されました。

・地震や微動の発生状況（図 2）

火山性地震の月回数は 74 回（8 月：60 回）と少ない状態で経過しました。

火山性微動の継続時間の月合計は 1 分（8 月：1 分）でした。

・地殻変動の状況（図 2、図 3、図 5）

GPS 連続観測では、火山活動によると思われる変化は認められませんでした。



図 1 口永良部島 噴煙の状況（9 月 10 日、本村西遠望カメラによる）
白色の噴煙が最高で火口縁上 300m まで上がりました。

この火山活動解説資料は福岡管区気象台ホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>）や気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 24 年 10 月分）は平成 24 年 11 月 8 日に発表する予定です。

※この資料は気象庁のほか、国土地理院、京都大学及び独立行政法人産業技術総合研究所のデータも利用して作成しています。資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50m メッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 23 情使、第 467 号）。

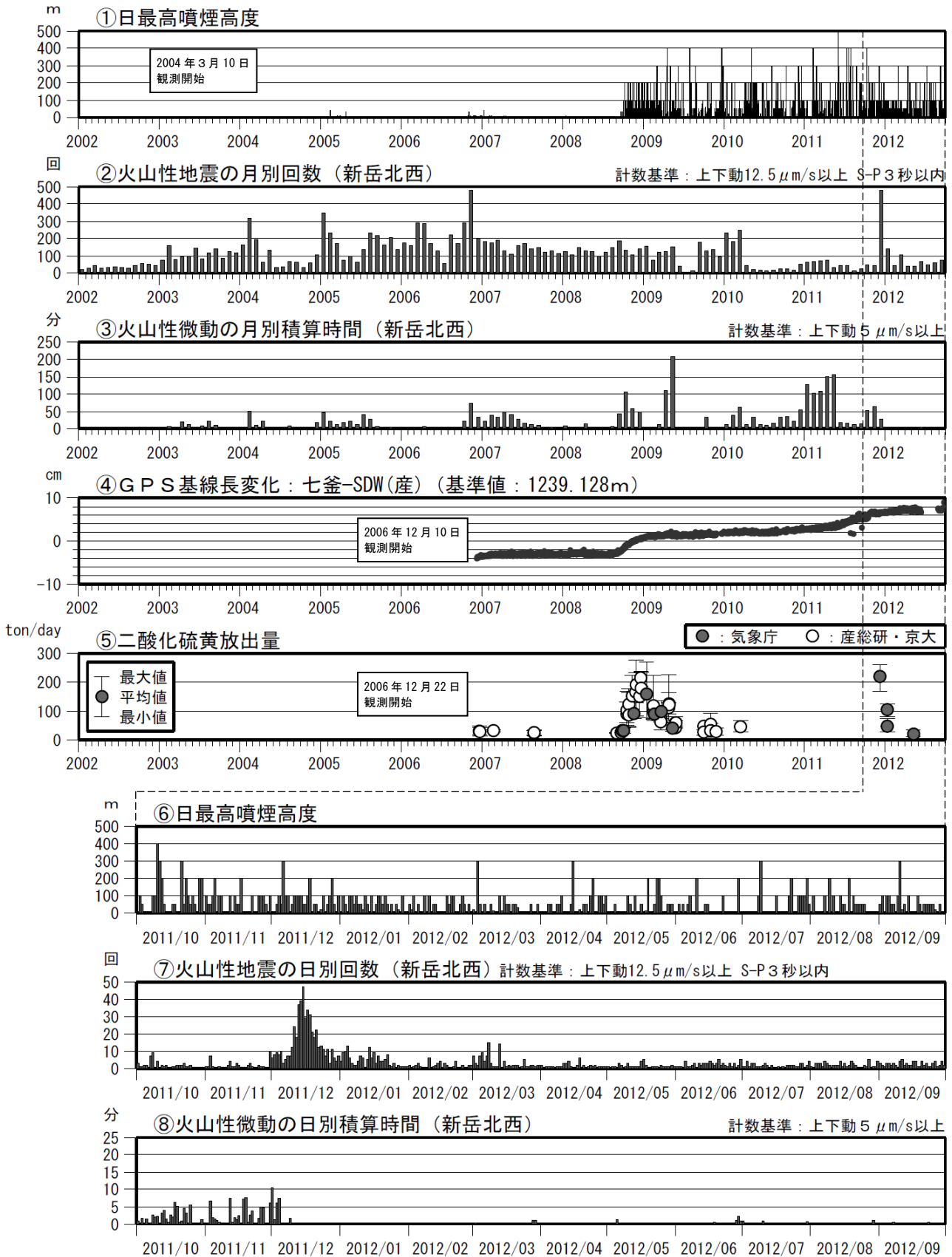


図 2※ 口永良部島 火山活動経過図（2002 年 1 月～2012 年 9 月）

＜9 月の状況＞

- ・ 白色の噴煙が最高で火口縁上 300m まで上がりました。
- ・ 火山性地震の月回数は 74 回（8 月：60 回）と少ない状態で経過しました。
- ・ 火山性微動の継続時間の月合計は 1 分（8 月：1 分）でした。

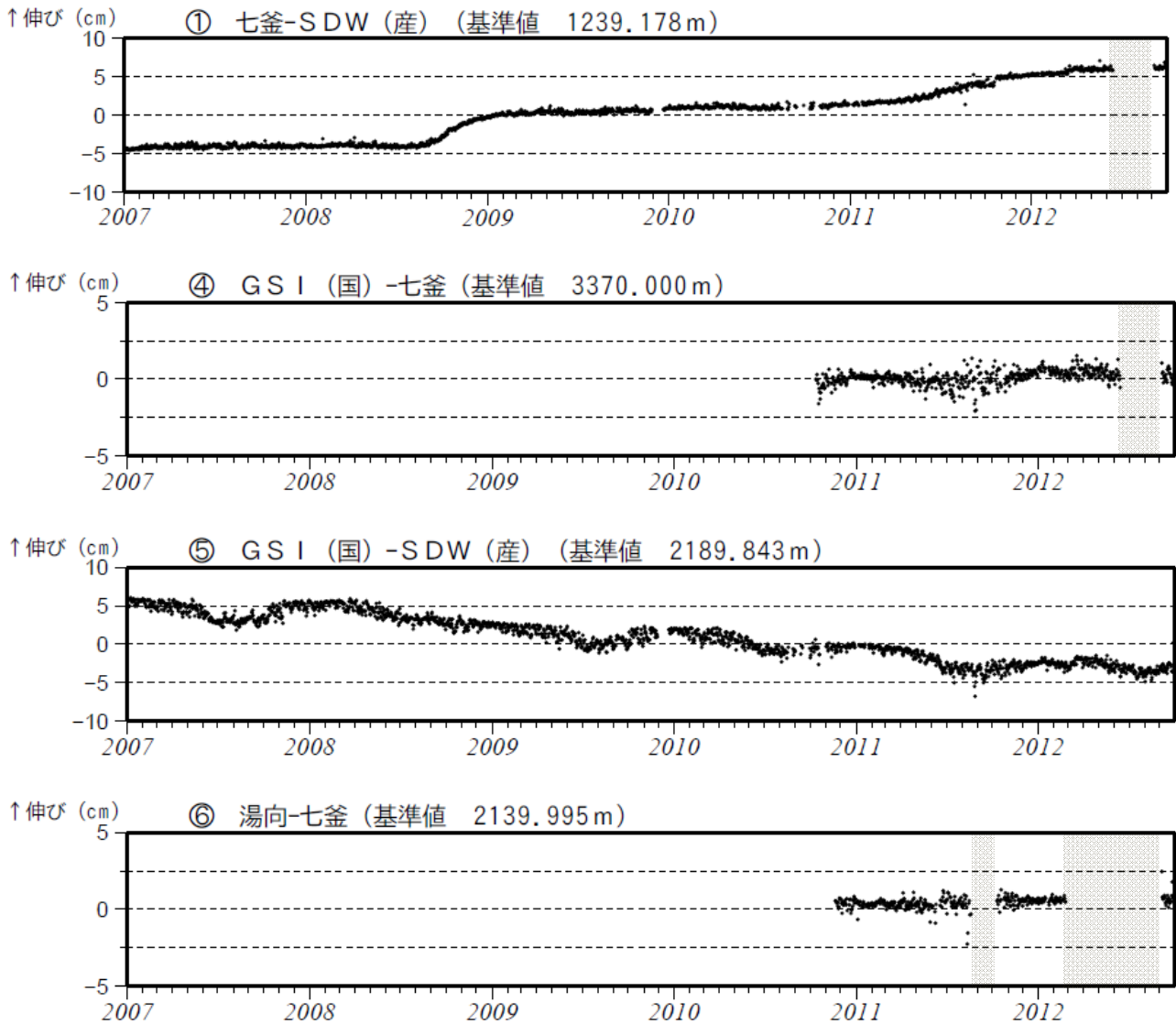


図3※ 口永良部島 GPS 連続観測による基線長変化（2007 年 1 月～2012 年 9 月）
GPS 連続観測では、火山活動によると思われる変化は認められませんでした。

2010 年 10 月以降のデータについては、電離層の影響を補正する等、解析方法を改良しています。
この基線は図 5 の①、④～⑥に対応しています。また、②、③、⑦～⑨は観測点障害による直近データ
欠測のため掲載を省略しました。灰色部分は観測点障害のため欠測。

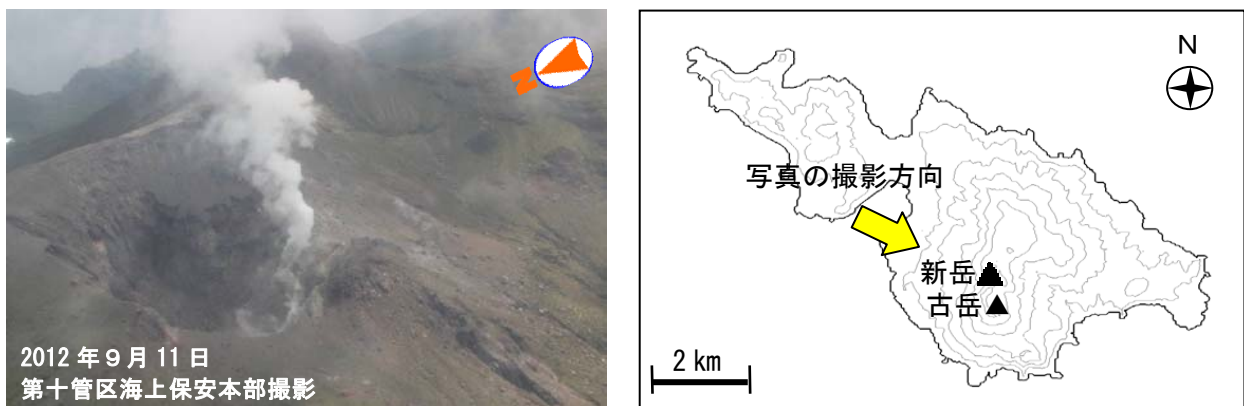


図 4 口永良部島 上空からの観測による新岳火口の状況
11 日に第十管区海上保安本部が実施した上空からの観測では、新岳火口から白色の噴煙が上がっているのが確認されました。噴煙活動に特段の変化はありませんでした。

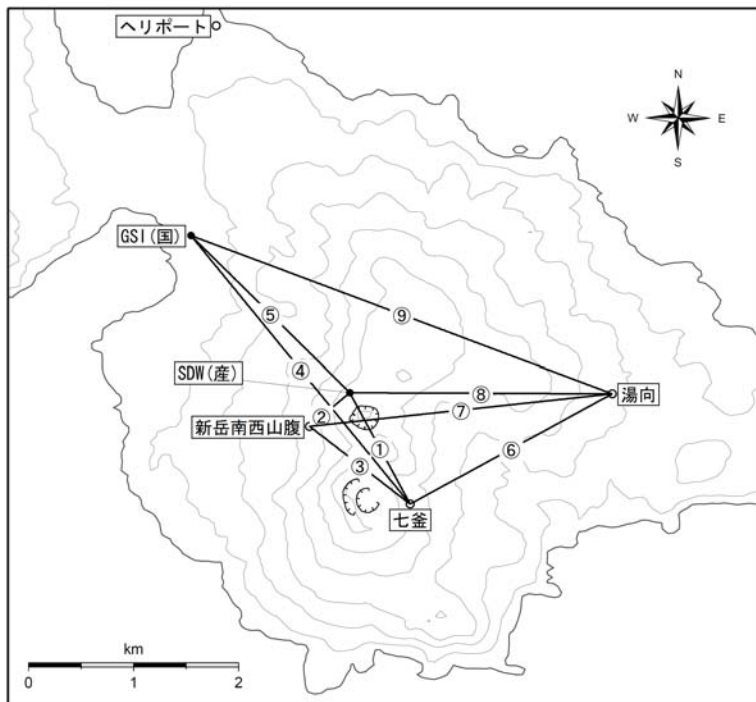


図 5 口永良部島 GPS 連続観測点と基線番号

小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は他機関の観測点位置を示しています。
 (国)：国土地理院、(産)：産業技術総合研究所
 ヘリポート観測点は現在調整中です。

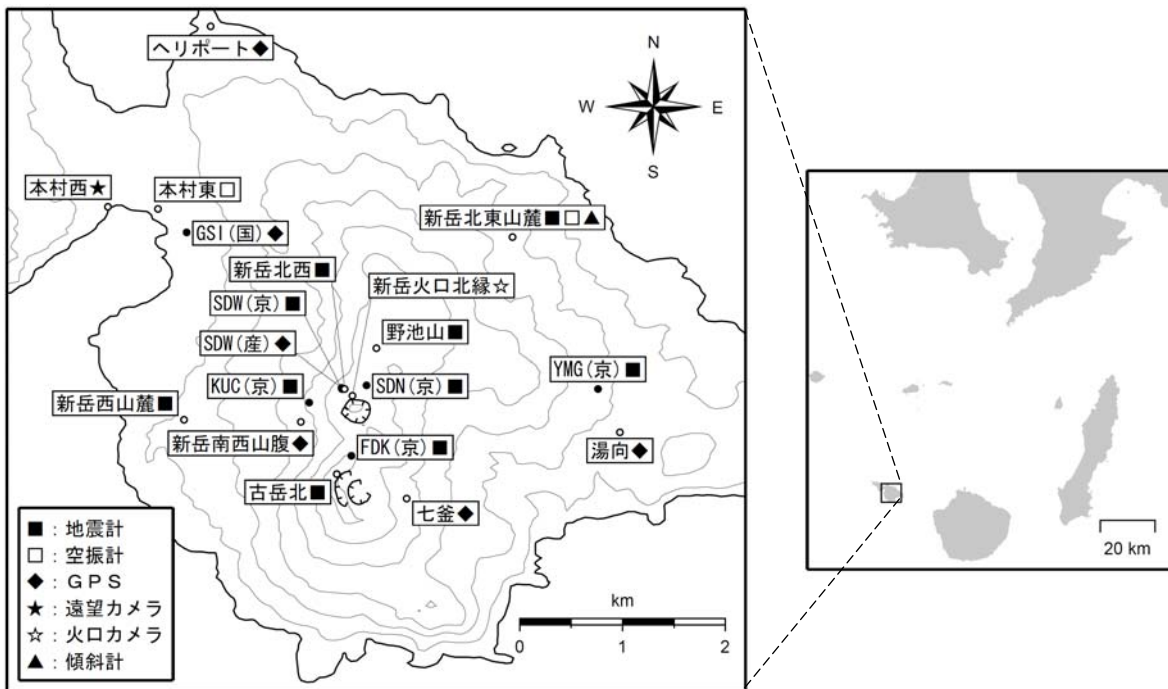


図 6 口永良部島 観測点配置図

小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 (国)：国土地理院、(京)：京都大学、(産)：産業技術総合研究所